

北海道学校体育研究連盟 第28回 全道研究担当者会議 (資料)

北海道学校体育研究連盟：留萌支部

Key Word

“もっと ずっと”を未来(あす)の“きっと”につなげよう!

【ルモイ体育と子どもたち】

- 小中連携の具体化を見据えた授業づくり
- 各小中学校における体力の向上を目指す取組
- 運動の日常化・習慣化を促す体育の授業づくり
- 体力・運動能力テストにおける種目間格差
→種目による成績の偏り(高:筋力・敏捷性 低:走力)

【我々の実践で実現したい!】

- ☆9年間で目指す力が身に付き、高まる体育
→系統性を見通した小中連携(小中連携・中中連携)
- ☆「2020 TOKYO」を見据え、運動やスポーツがある子どもの育成
- ☆体育の授業で実現する子どもの体力UP, 運動能力UP
- ☆自ら、みんなと考え・練り・解決する、深い学びの体育

研究主題

子どもたちの体と心を見つめ

「今」をたがやし「未来(あす)」の力をはぐくむ留萌の体育
わかって できて おもしろい! 「楽しい体育」をつなぎ つみかさねて!

つくりたい授業

- ◎「楽しい」を創り 浸らせながら 指導内容を身に付けさせる授業
○「やることハッキリ! 運動タツプリ! 手応えバッチリ!」 ○課題・ねらいの明確化
○十分な運動量 ○明らかな評価の視点
- ◎体育・運動に「肯定的」で「前向き」なコエが聞こえる授業
○「楽しい!」 ○「がんばれー!」 ○「できた!」 ○「上手だね!」 ○「こんどこそ!」 ○「ドンマイ!」

つくりたい授業を具現化する3つの「つながり」

- 【視点1】「単元の設計」前向きな学びを生む仕掛け・枠組み→子どもと運動をつなぐ
◇単元はじめと終わりの演出 ◇身に付けたい技能、高めたい力をハッキリ・スッキリ・ズバリ!
◇運動(種目)の本質を捉えた学ばせ方 ◇単元を通して高めたい体力・運動能力 ◇9年間の積み重ねを意識した単元設計
- 【視点2】「学びの設定」学びを進める場と道すじ→子どもと子どもがかかわる
◇学びの場、学びの過程、学びの形態 ◇公正、協力、責任、参画、共生への“ヤル気”
◇共に学び、共に汗し、共に乗り越え、共に競い、共に高まる
- 【視点3】「学びへの対応・見取り」学びを深める手立て→子どもと教師のつながり
◇積極的な指導と見守る指導 ◇指導場面、指導タイミング、指導のテンション
◇評価の視点(規準・基準)、評価の方法 ◇子どもが自己評価(検証)できる場面づくり

留萌管内研究大会

平成27年度 次年度研究大会に向けた取組(ゼミナール)

平成28年度 留萌管内研究大会(南部)

平成29年度 次年度研究大会に向けた取組(ゼミナール)

平成30年度 留萌管内研究大会(北部)「羽幌大会」

まとめ
次期構想

まとめ
次期構想

平成30年度 留萌管内学校体育研究大会(羽幌大会)の概要

今年度は、近隣管内含め、留萌管内“体育仲間”が多数参加し、研究大会を行うことができた。新学習指導要領導入を見据えた研究の方向性や授業の見どころを確認した上で、授業を参観し、その後の活発な研究協議へとつなげることができた。

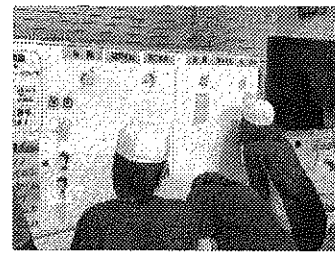
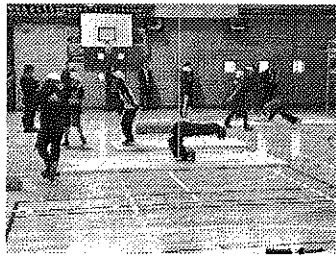
授業[小]：第6学年 「器械運動（マット運動）」

羽幌町立羽幌小学校 靱山 朋久 教諭

《授業の見どころ》

「ステージアップコンテスト」を目指し、①技のポイントを見つけ、②動きに生かし、仲間と力を合わせながら取り組む姿を！！

○付箋を用いることで、子どもたちの活動が広がり、運動量の確保がなされた。また、技のポイントへの意識が高まり、その結果、学び合い、教え合いの姿が多く見られた。
 △子どもの思いも大切にしながら、知識としての技能ポイントを確実に学ばせることも大切。そこは、教師のかかわりが大きい。
 △課題（ゴール）の明確化が大切。そこを目指し、ステップアップできる場の設定も大切。



授業[中]：第1学年 「器械運動（マット運動）」

羽幌町立羽幌中学校 今村 俊平 教諭

《授業の見どころ》

技の“なめらかさ”を追求した発表会を目指し、①技のポイントを理解し、②技の完成度を高めるため、仲間と共に計画的に取り組む姿を！！

○自分たちで練習内容の計画を立てることで、見通しをもつことができた。また、振り返りの後に、もう一度体を動かし出来映えを確認する時間が設定されていたのがよかった。
 △深い学びのためには、教師の指導場面のバランスが大切。さらに、そのかかわり方が重要。子どもを見とるためには、放射線状にマットをセットするなど場の工夫も大切。
 △運動量の確保に課題が残った。i-pad 活用は、単元全体や一単位時間の中での必要感を考慮し、バランスを図る工夫が大切である。

